

海軍操練所跡の碑 新港町



京町筋を南に下がり、阪神高速の高架の下あたりに1968（昭和43）年10月に建てられた「史蹟旧海軍操練所跡」の文字（金井元彦元兵庫県知事筆）の入った錨型の記念碑が建っている。このあたりから東にかけての一带に、勝海舟（かつかいしゅう）が開いた海軍操練所があった。江戸幕府の鎖国体制が崩壊し、外国船来航に伴い摂海防備の声が高まり、その視察のため将軍徳川家茂（いえもち）が1863（文久3）年4月23日に小野浜に上陸した。この時、勝がこれに従い、彼はこの地に海軍操練所の建設を進言し、家茂はこれを許したのである。勝がここに操練所を建設しようとしたのは、二ツ茶屋村の網屋吉兵衛（あみやきちべえ）が神戸村安永新田に築いた船たて場（現在のドッグに相当する）の設備がすでにあっただからだ。同24日、勝は神戸村海軍所造船所御取建御用並摂海防禦御用に任命され、海軍操練所の建設にあたった。海軍操練所は海軍営、海軍局、海軍所ともいい、海軍兵学校、海軍機関学校を兼ね備えたものである。なお、勝は鷹取山から石炭を採掘して、操練所で利用しようとしていた。その翌年1864（元治1）年の5月29日から生徒募集を布告して活動を始めたが、勝は幕府に反対する者まで入所させたので、その翌年1865（元治2）年3月には操練所は閉鎖されることになる。操練所の開所期間は非常に短かったが、その間に坂本龍馬、陸奥宗光などの偉人を出し、日本の海軍建設に貢献した割合は高いといえよう。その後、海軍操練所の建物はイギリスの領事館となったり、移築して小学校の校舎になったりしている。